

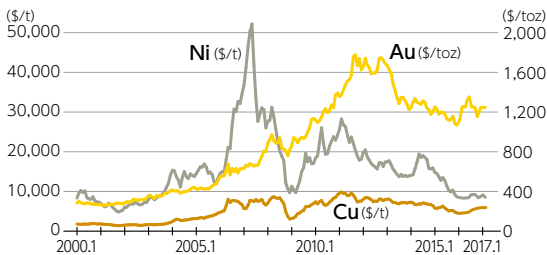
2016年度の業績と2017年度の計画

FY2016 Results and FY2017 Plan

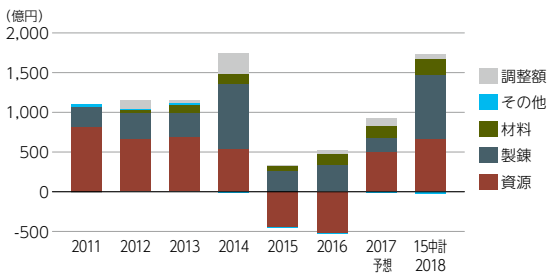
2016年度業績の振り返り

当期の連結売上高につきましては、電気銅の販売数量の増加があったものの、ニッケルおよび銅価格の下落ならびに円高の影響により、前期比692億61百万円減少の7,861億46百万円となりました。連結営業利益は、当期末にかけての円安傾向および金価格の上昇による在庫評価影響の好転に加え、モレンシー銅鉱山の権益を追加取得したことにより、前期比166億70百万円増加の763億90百万円となりました。連結経常損益は、シエラゴルダ鉱山社において当期も減損損失が計上されたため、持分法による投資損失が増加しましたが、連結営業利益の好転などにより、損失額は前期比111億99百万円減少し15億65百万円の損失となりました。親会社株主に帰属する当期純損益は、バツヒジャウ鉱山の権益を保有していたヌサ・テンガラ・マイニング社の解散に伴う投資有価証券清算益を特別利益に計上したものの、国内連結子会社である株式会社ジェー・シー・オーにおいて同社施設の廃止措置に向け、廃止措置準備引当金繰入額を特別損失に計

金属価格推移

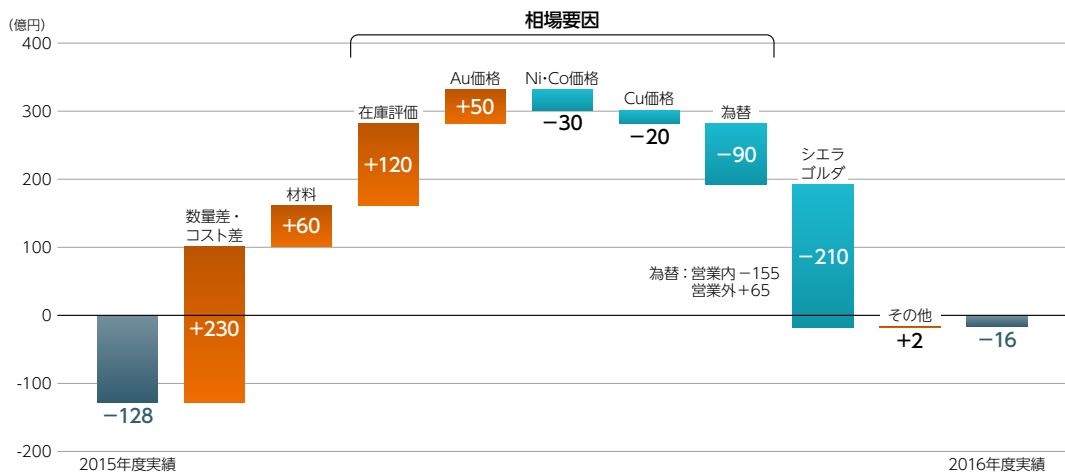


セグメント損益推移



上したことで、ならびに前期において計上された投資損失引当金の取崩による戻入益がなかったことから、前期比182億31百万円悪化となる185億40百万円の損失となりました。

経常利益分析 (2015年度実績と2016年度実績の比較)



資源セグメント

菱刈鉱山につきましては、計画通りの操業を継続し、当期の金銀鉱の生産量は149,959 t (含有金量は6,269kg) となりました。ポゴ金鉱山 (米国) の生産量および販売量は鉱石の金品位低下により前期を下回りました。モレンシー銅鉱山 (米国) は、生産量および販売量はほぼ前期並みとなりましたが、保有権益が15%から28%に増加したことから、生産量および販売量は増加しました。セグメント損益は、シエラゴルダ鉱山社において減損損失が計上されたことに加えて、銅価格の下落などにより、損失となりました。

製錬セグメント

銅の生産量および販売量は前期を上回りましたが、ニッケルならびに金の生産量および販売量は前期を下回りました。セグメント利益は、ニッケル販売量の減少に加え、ニッケル価格の下落などによる影響はありましたが、コーラルバイニッケル社およびタガニートHPAL社におけるコスト削減などにより前期を上回りました。

※当社の経常損益 (セグメント損益) に計上する割合は、非支配株主に帰属するものを含むため、当社自身が保有する割合とは一致しません。

材料セグメント

電池材料および結晶材料は、車載用電池およびスマートフォン向けなどの部材の需要の伸びに対応するため増産投資を行い、生産量および販売量は前期を上回りました。パッケージ材料は、パソコンや液晶テレビ向けなどの部材の需要低迷から販売量は減少しました。当セグメント利益は増産投資の効果により前期を上回りました。

2017年度計画

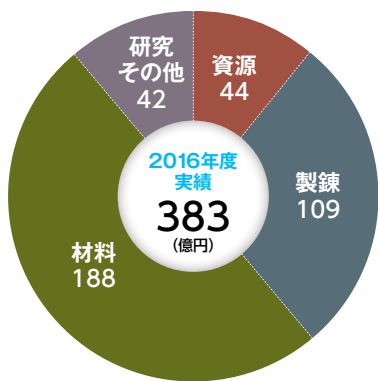
次期の業績の見通しとしましては、売上高については、銅価格・ニッケル価格の好転を主因に増収となるものの、営業利益については、銅精鉱の原料条件悪化や電気銅等の在庫評価影響などにより減益となる見込みです。連結売上高は8,550億円、連結営業利益は750億円、連結経常利益は900億円、親会社株主に帰属する当期純利益は630億円となる見込みです。

設備投資における環境保全関連投資

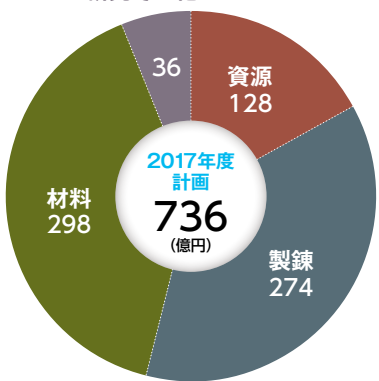
年度	公害防止・環境保全	省エネルギー	総額
2016	3,730	240	3,970
2017	6,508	731	7,238

※休廃止鉱山に係る支出は、休廃止鉱山維持費として会計上処理されていますので、本投資額には計上されていません。休廃止鉱山に関する費用はP49を参照ください。

設備投資 (2016年度の実績と2017年度の計画)

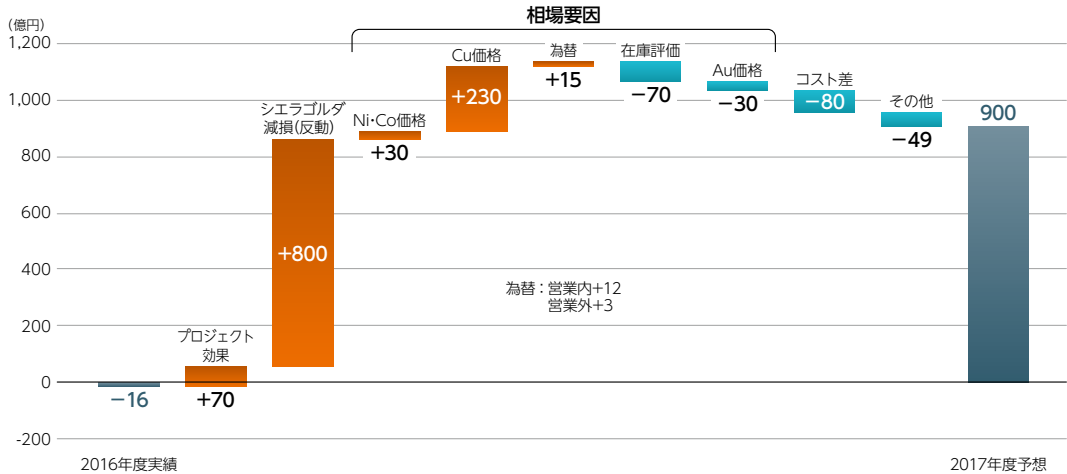


研究その他



2017年度の設備投資は、2016年度実績383億円を上回る736億円を計画しています (なお、2016年度実績には海外資源金属プロジェクト投資1,120億円を含んでいません)。主なものは、ニッケル酸リチウム3,550t/月増強175億円、スカンジウム回収事業35億円、LT/LN基盤増強20億円となっています。

経常利益分析 (2016年度実績と2017年度予想の比較)



資源セグメント

資源セグメントは、銅価格上昇とシエラゴルダ鉱山における損失の減少などにより、当期に比べて増益を見込んでいます。セグメント売上高は前期比236億円増加の1,470億円、セグメント利益は前期比1,026億円増加の490億円を見込んでいます。

製錬セグメント

製錬セグメントは、銅精鉱の原料条件悪化や、電気銅等の在庫評価影響などにより、当期と比べ減益を見込んでいます。セグメント売上高は前期比229億円増加の5,880億円、セグメント利益は前期比73億円減少の260億円を見込んでいます

材料セグメント

材料セグメントは、リードフレーム事業撤退等に伴う減益分を、電池材料事業、結晶材料事業の増販益で補い、ほぼ当期並みの利益を見込んでいます。セグメント売上高は前期比109億円増加の1,850億円、セグメント利益は前期比1億円減少の120億円を見込んでいます。